よろこび

日蓮宗 顕聖会
本山 妙顕寺
長音山 本要寺

『よろこび』二十六

貫首 齊藤 日軌

四月二六日に、開本山妙顕寺開山祖天目日盛上人の第七百十遠忌記念落慶法要が本山妙顕寺で厳修されました。日蓮聖人の直弟子中老僧天目上人は唐沢城主佐野家を教化し、家老若田部源五郎光盛公が帰依して、下野国安蘇郡奈良淵村に一宇を建立しました。妙顕寺は永享四年（一千四百二十三年）六月、ときの将軍足利義教（よしのり）より寺領三百石を寄進され、永正四年（一千五百七年）佐野家の祈願所となりました。

平成二十二年私は、日蓮聖人、天目上人のお導きで、当山に晋山させていただき感謝と喜びでいっぱいでしたが、ふと本堂の屋根に目をやると屋根には木が生え、白壁はいたるところは上げ落ちていました。是非この状態を、本山にふさわしい状態に戻したいと念願していましたが、幾たびも会議を重ねた後、平成二十四年の最終の当日、不思議なことに役員さんと本堂屋根を見たところ、その日に限って屋根の垂木が何本か折れており、役員さん全員一致で早急に何とかしなければということになったのです。

また屋根の瓦を下ろしたところ慶応二年と記されていました。その年は薩長同盟が成立、坂本龍馬が襲撃された年です。

なんと百五十一年前の瓦だったのです。

全ての工事が完了し落慶法要ができたのは、日蓮聖人天目上人宗門の先輩友人檀の信徒の皆さんの心からのご支援のたまものです。心からのよろこびを以て感謝申し上げます。

みおしえ

南無妙法蓮華経と唱え、本山妙顕寺の落慶を喜び、私たちの心に霊的理想が再建されたことを確認しよう。

南無妙法蓮華経と唱え同時に北海道本要寺も本堂納骨堂会館修復再建構築の時期を迎えました。

私たちは改めて修顕寺の霊的理想を思い出し、心に誰もが持つ世界を生きる為の法要に参拝しましょう。

私たちは霊的理想を高めた地上浄土に出かけ、この地上世界に再構築する為の心を持ってきましょう。

南無妙法蓮華経と唱え、本山妙顕寺の落慶を喜び、改修顕寺の霊的理想を思い出し、心に誰もが持つ世界を生きる為の法要に参拝しましょう。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え
霊的理想を思い出し、心に
霊的理想本願を再建しましょう